

# 「集団精神療法」投稿規定

発行：第1号（春季）および第2号（秋季）の年2回発行。

掲載内容：第1号は学術投稿論文、第2号の大会特集については日本集団精神療法学会年次大会会長を編集責任とする。

執筆者：原則として本学会会員によるものとする。ただし編集委員会が企画するものはこれに限らない。

## ●第1号 学術投稿論文

学術投稿論文には、A. 原著論文、B. 総説、C. 研究報告、D. 事例報告、E. 研修論文、F. その他がある。

### A. 原著論文 (Original Article)

- 1) 学術的にオリジナルな貢献のある論文。集団精神療法とその関連分野における臨床的ならびに基礎的研究であって、「問題の所在、課題の論点、目的、方法、結果、考察、結論」の構成が明確であること。未発表のものに限る。事例提示の場合は守秘義務を守り個人が特定できないようにすること。
- 2) 本文、図表、文献の全てを含めてA4版（40字×30行）×10枚以内とする。図版、写真、表は必要最小限として規定枚数に含まれる。この他英文抄録、和文抄録、英文と和文キーワードそれぞれ5つ以内を添付する。

### B. 総説 (Review Article)

- 1) 特定テーマに関する研究、理論のレビューにもとづいた総説論文。
- 2) 本文、図表、文献の全てを含めてA4版（40字×30行）×10枚以内とする。英文抄録、和文抄録、英文と和文キーワードそれぞれ5つ以内を添付する。

### C. 研究報告 (Research Report)

- 1) 事例研究、実証、調査研究で、原著論文に準ずる構成によって、臨床的、学術的に貢献のある論文。原著論文ほどオリジナリティは要求されない。追試、探求的研究を含め、研究蓄積に貢献するもの。
- 2) 本文、図表、文献の全てを含めてA4版（40字×30行）×7枚以内とする。英文抄録、和文抄録、英文と和文キーワードそれぞれ5つ以内を添付する。

### D. 事例報告 (Case Report)

- 1) 集団精神療法に関する個人事例及び集団事例の臨床検討論文。臨床事例としての価値が認められるもの。
- 2) 本文、図表、文献の全てを含めてA4版（40字×30行）×7枚以内とする。英文抄録、和文抄録、英文と和文キーワードそれぞれ5つ以内を添付する。

### E. 研修論文

- 1) 研修論文は、論文とする価値は認められるものの、論文を書き慣れていない方々を積極的に支援する投稿枠である。通常の投稿論文とは異なり、論文スーパーヴァイザーとのやりとりを通じて論文を完成させる。
- 2) 本文、図表、文献の全てを含めてA4版（40字×30行）×7枚以内とする。英文抄録、和

文抄録、英文と和文キーワードそれぞれ5つ以内を添付する。

- 3) 論文スーパーバイザーより論文へのコメントが誌上で添付され、さらにそれへの著者のリプライ(1600字程度)を掲載する。
- 4) 採用・不採用の決定は、編集委員会の審査による。
- 5) 論文スーパーバイザーの希望があれば、投稿の際明記すること。

## F. その他

- 1) 短報: 研究の要旨が明瞭、コンパクトにまとめられ、その領域の研究蓄積に貢献するもの。本文、文献、図表の全てを含めてA4版(40字×30行)×3枚以内とする。
- 2) Letters to the editor: 本誌に掲載された論文への意見・感想を書簡形式で書いたもの。本文、文献、図表の全てを含めてA4版(40字×30行)×3枚以内とする。

## ●第2号 大会論文

- 1) 大会発表した内で、投稿論文としてまとめたもの。
- 2) 本文、図表、文献の全てを含めてA4版(40字×30行)×7枚以内とする。この他英文抄録(掲載を希望する場合)、和文抄録、英文と和文キーワードそれぞれ5つ以内を添付する。
- 3) 様式に関しては大会長の判断によるものとする。

(2011年3月13日改訂)

## <執筆規定>

- 1) 執筆にあたっては、述語以外は「当用漢字」を用い、「新かなづかい」に従い横書きの楷書体で、外国語はタイプするかわかりやすい活字体で書くこと。原稿はワープロによるものが望ましい。その際、頁数を入れること。
- 2) 引用文献は本文の終わりに「文献」の見出しで著者の姓を基準にしてアルファベット順に、一括して記載すること。
  - a) 文献の記述形式は、雑誌の場合は、著者名、公刊年度(西暦)、論題、誌名(外国語雑誌はイタリック)、巻(イタリック)、号、記載頁の順序による。単行本の場合は、著者名、発行年度(西暦)、書名(外国語書籍はイタリック)、発行所所在地、出版社、引用頁の順とする。ただし編者と担当執筆者の異なる単行本の場合は、該当執筆者を筆頭にあげ、以下発行年度、編者名、書名(外国語書籍はイタリック)、発行所所在地、出版社、頁の順とする。
  - b) 著者名を基準にした一括記載の場合、同一著者で2種以上の文献がある場合は発行年度順とし、さらに同年度に同一人の2種以上の文献がある場合には2001a、2001bのように区別して記載すること。
  - c) 本文中に文献を引用した場合は、本文中の記載に際し、その引用した著者名とそれに引きつづいて( )内で示される公刊年度を記入すること。

### <記載例>

相田信男(2006) 実践・精神分析的な精神療法—個人療法そして集団療法—。東京: 金剛出版。

Kanter, S.(1976) The therapist's leadership in psychoanalytically oriented group

therapy. *International Journal of Group Psychotherapy*, 26, 139-147.

鈴木純一(1992) Maxwell Jones の治療共同体と分裂病の治療. 飯田真編, 分裂病の精神病理と治療 4. 東京: 星和書店, 245-275.

高橋哲郎(1997) 慢性患者の対象関係集団精神療法. 集団精神療法, 19(2), 125-130.

Vinogradov, S. and Yalom, I. D.(1989) *Concise Guide to Group Psychotherapy*. New York: American Psychiatric Press. 川室優訳(1991) グループサイコセラピー. 東京: 金剛出版.

注意: 著者複数の場合、本文内では「筆頭著者他(例: 北西ら 2004)」の記載とするが、文献欄の記載に際しては、全著者名を明記することとする。

- 3) 脚注は文末(文献の前)に挿入する。
- 4) 論文の規定枚数の超過は、編集委員会が必要と判断した場合のみ認められることとする。ただし、超過分について印刷に要した実費は投稿者の負担とする。
- 5) 原稿は、第1号に関しては3部を編集委員会宛に送付する。書留は不可、第2号に関しては1部を年次大会会長宛に送付する。
- 6) 投稿の採否は、第1号に関しては3名以上の査読判定を経て本誌編集委員会が決定する。第2号に関しては、大会長の査読を経て本誌編集委員会が決定する。
- 7) 掲載原稿は返却しない。
- 8) 著者校正は原則として一度行う。
- 9) 投稿論文の別刷は実費を申し受ける。
- 10) 本誌に掲載された記事の著作権は、日本集団精神療学会に帰属する。著者本人を除き日本集団精神療学会の許可なく記事を複製することはできない。

(2013年3月16日改訂)

## ●著作権に関する手続き

### 1. 著作権譲渡の手続き

記事(論文等)の著作権は、本学会に最終原稿が届いた時点から本学会に移転するため、著者は「著作権譲渡同意書」を提出すること。

### 2. 著作物利用許諾申請の手続き

著作物の利用を希望する場合は、「著作物利用許諾申請書」、著作物の利用希望箇所、該当箇所が掲載されている雑誌の表紙のコピーを添付して(ただし、該当箇所が全文の場合は、雑誌の表紙のコピーのみを添付)、編集委員会事務局に提出すること。著作者以外からの申請の場合は、主な著作者の「著作物利用承諾願」を必ず添付すること。

詳細は学会ホームページ([www.jagp1983.com](http://www.jagp1983.com))を参照のこと。なお「著作権譲渡同意書」、「著作物利用許諾申請書」、「著作物利用承諾願」は同ページからダウンロード可能。

## ●第1号原稿送付先

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1

立命館大学大学院応用人間科学研究科

藤 信子

「集団精神療法」編集委員会

e-mail: wistaria@hs.ritsumei.ac.jp

※注意事項：投稿の際、投稿論文の種類を明記のこと。

Nobuko Fuji

Ritsumeikan University, Graduate School of Science for Human Services,

56-1 Tojiin Kitamachi, Kita-ku, Kyoto, 603-8577, Japan

●第2号原稿送付先

第1号と同様。ただし、第2号の大会特集部分の原稿の送付先は各年次大会会長宛とする。